

マダニ媒介感染症に注意しましょう！



日本紅斑熱

症状 高熱・頭痛・筋肉痛・倦怠感
痒みや痛みのない全身に広がる皮膚の斑状発赤



フタトゲチマダニ

重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)

症状 高熱・消化器症状 (嘔吐・下痢・腹痛・下血)・頭痛・筋肉痛・意識障害

<畑や野山などに立ち入る際の注意事項 (マダニに咬まれないことが大切！)>

1. つばの付いた帽子、長袖、長ズボン、丈の長い長靴などを着用し、肌の露出を避けましょう。
2. 「イカリジン」や「ディート」という成分を含む虫除け剤に補助的な効果があると言われています。長く畑や野山などに立ち入る際は、使用上の注意に従い使用しましょう。
3. 畑や野山などに立ち入った後は、家の外で服や体をはたき、マダニを落としましょう。
4. 畑や野山などに立ち入った衣服は、すぐに洗濯するか、ビニール袋等に入れ、密封し保管しましょう。
5. 着替えや入浴の際に、吸血したマダニが体に付着していないか確認しましょう。
マダニは毛髪に覆われた部分、頸部や肩、背中、脇の下や下腹部、臀部など目が届きにくい場所を好んで吸血します。

<マダニに咬まれた時の注意事項>

1. マダニに咬まれたときは、マダニをつぶさないように頭部をピンセットではさんで、まっすぐ引き抜いてください。自分でとれないときや、マダニの一部が皮膚に残った時は最寄りの医療機関に相談してください。
2. 受傷後1週間程は体調の変化に注意してください。上記の症状があれば早急に医療機関を受診してください。

<マダニ媒介感染症>

1. 畑や野山などには原虫や細菌、ウイルスなどの病原微生物を保有するマダニが生息しています。マダニに咬まれた後「日本紅斑熱」や「重症熱性血小板減少症候群」という疾患を発症する事があります。
2. 三重県では伊勢志摩地方を中心に年間70～80件程度の日本紅斑熱症例が報告されています。また2015年以降は重症熱性血小板減少症候群(SFTS)の患者も発生しています。
3. これらの疾患の多くはマダニの活動時期に一致し、春から秋にかけて発生します。マダニに咬まれたことに気付かず発症する方もいます。
4. マダニに咬まれても、これらの疾患を発症する可能性は1%に満たないと考えられますが、**流行時期に上記の症状があれば、発症した可能性があります。医療機関を受診し、医師にマダニに咬まれた可能性があることを告げましょう。**
5. 通常、人から人に感染することはありません。

◎問い合わせ先 (詳細については下記連絡先にお問い合わせください)

所属名	電話番号
桑名保健所	0594-24-3625
鈴鹿保健所	059-382-8672
津保健所	059-223-5184
松阪保健所	0598-50-0531
伊勢保健所	0596-27-5137

所属名	電話番号
伊賀保健所	0595-24-8045
尾鷲保健所	健康増進課 0597-23-3454
熊野保健所	0597-89-6115
四日市市保健所	保健予防課 059-352-0595
三重県医療保健部	感染症対策課 059-224-2712

※協力：伊勢赤十字病院